

スーパーマーケット販売統計調査資料

2017年6月実績 速報版(パネル270)

5月実績 確報版(パネル270)

(2017年7月21日公表)

調査資料概要

【パネル270社集計】

食品を中心に扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

※2016年4月実績よりパネル対象企業変更(275社→270社)

【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1m²あたり売上高

【速報版・確報版】

速報版:毎月21日前後に前月販売実績を速報値として公表

確報版:速報値に精度の高い集計を行い確報値として公表

【全店・既存店】

全店:前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較

既存店:前年同月、当月共に営業の店舗による比較

【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮3部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜	惣菜、折詰料理、揚物、弁当、おにぎり、寿司、インスタアベーカーリー、ファーストフード	
	日配	豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム		
	一般食品	調味料、瓶缶詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類		
	非食品	日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具		
その他	テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業(DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)			

【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄

※2014年4月実績よりエリア区分を8地方区分による6地方に変更

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2017年7月21日

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会
 一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
 2017年6月実績 速報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	86,202,851	100.0%	100.7%	99.4%
食品合計	77,076,933	89.4%	101.2%	99.7%
生鮮3部門合計	28,783,386	33.4%	100.2%	98.5%
青果	11,861,147	13.8%	98.6%	97.1%
水産	7,177,292	8.3%	97.4%	95.7%
畜産	9,744,947	11.3%	104.4%	102.4%
惣菜	8,539,578	9.9%	102.8%	100.9%
日配	16,900,183	19.6%	101.3%	100.0%
一般食品	22,853,786	26.5%	101.7%	100.5%
非食品	6,790,735	7.9%	97.1%	97.0%
その他	2,335,232	2.7%	97.5%	98.1%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	11,843,418	43	100.2%	99.1%
関東地方	31,893,655	73	101.2%	100.5%
中部地方	10,570,036	53	100.4%	98.1%
近畿地方	18,864,152	44	100.8%	99.3%
中国・四国地方	8,559,923	34	99.8%	97.6%
九州・沖縄地方	4,471,666	23	99.4%	99.1%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	757,966	48	96.9%	97.2%
4~10店舗	3,689,465	68	100.0%	99.1%
11~25店舗	9,845,959	65	100.4%	98.7%
26~50店舗	16,008,263	46	100.1%	98.4%
51店舗以上	55,901,197	43	100.9%	99.8%

集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	83,943,150
総店舗数 (店舗)	7,764	店舗平均月商 (万円)	11,103
総売場面積 (㎡)	12,832,347	売場1㎡あたり売上高 (万円)	6.7

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2017年7月21日

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会
 一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
 2017年5月実績 確報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	89,408,418	100.0%	100.4%	99.2%
食品合計	80,215,545	89.7%	100.6%	99.3%
生鮮3部門合計	30,350,788	33.9%	99.6%	98.1%
青果	12,384,130	13.9%	98.4%	97.1%
水産	7,715,961	8.6%	97.8%	96.4%
畜産	10,250,697	11.5%	102.5%	100.8%
惣菜	8,969,685	10.0%	102.2%	100.3%
日配	17,428,363	19.5%	100.7%	99.4%
一般食品	23,466,709	26.2%	101.4%	100.5%
非食品	6,727,196	7.5%	98.4%	98.2%
その他	2,465,726	2.8%	99.0%	98.7%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	12,551,502	43	100.7%	99.1%
関東地方	33,025,572	73	100.7%	99.9%
中部地方	11,077,191	53	99.3%	97.9%
近畿地方	19,177,154	44	101.0%	100.0%
中国・四国地方	8,954,482	34	99.2%	97.1%
九州・沖縄地方	4,622,517	23	99.1%	98.7%

保有店舗数別集計

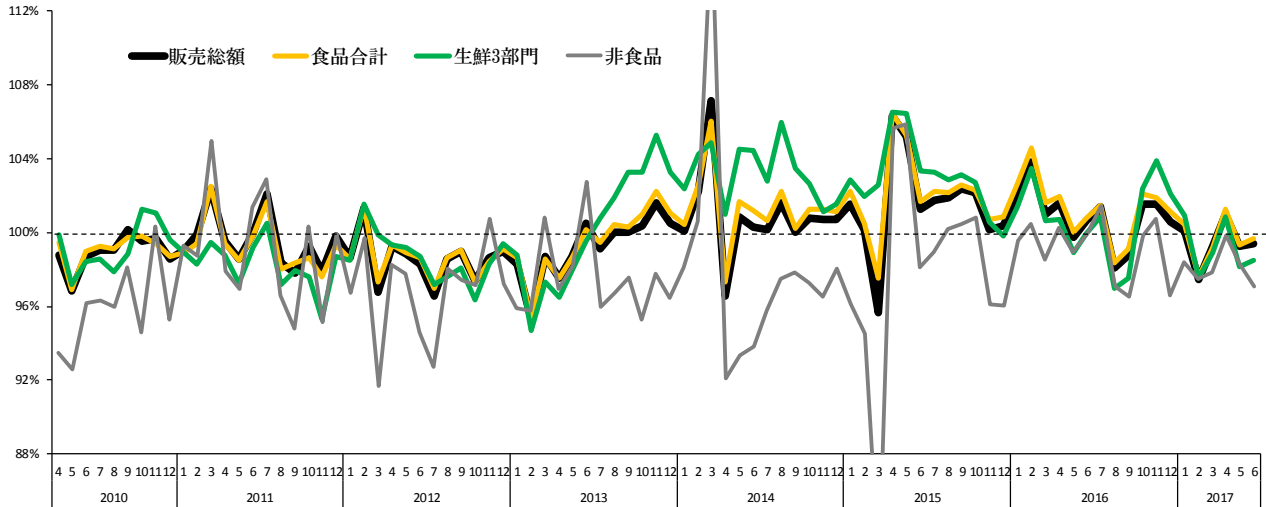
保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	795,595	48	96.7%	96.9%
4~10店舗	3,705,365	67	99.2%	97.7%
11~25店舗	10,679,460	67	98.9%	98.4%
26~50店舗	16,492,789	45	100.0%	98.4%
51店舗以上	57,735,209	43	100.9%	99.8%
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	87,111,955	
総店舗数 (店舗)	7,768	店舗平均月商 (万円)	11,510	
総売場面積 (㎡)	12,824,114	売場1㎡あたり売上高 (万円)	7.0	

※売上高は税抜金額

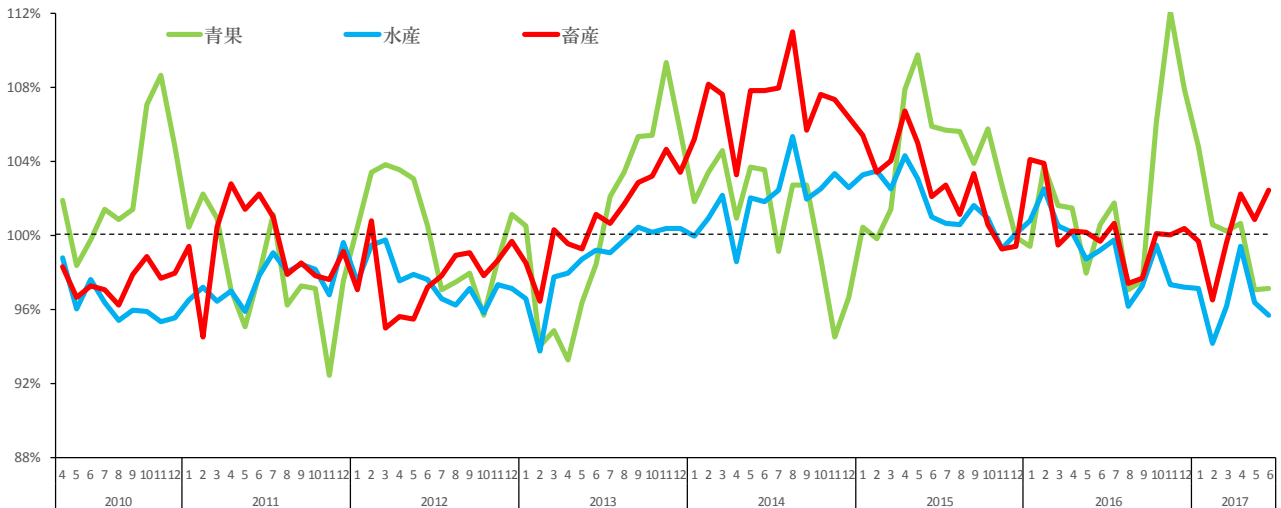
※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

スーパーマーケット販売統計(パネル270) 既存店前年同月比推移 2010年4月～

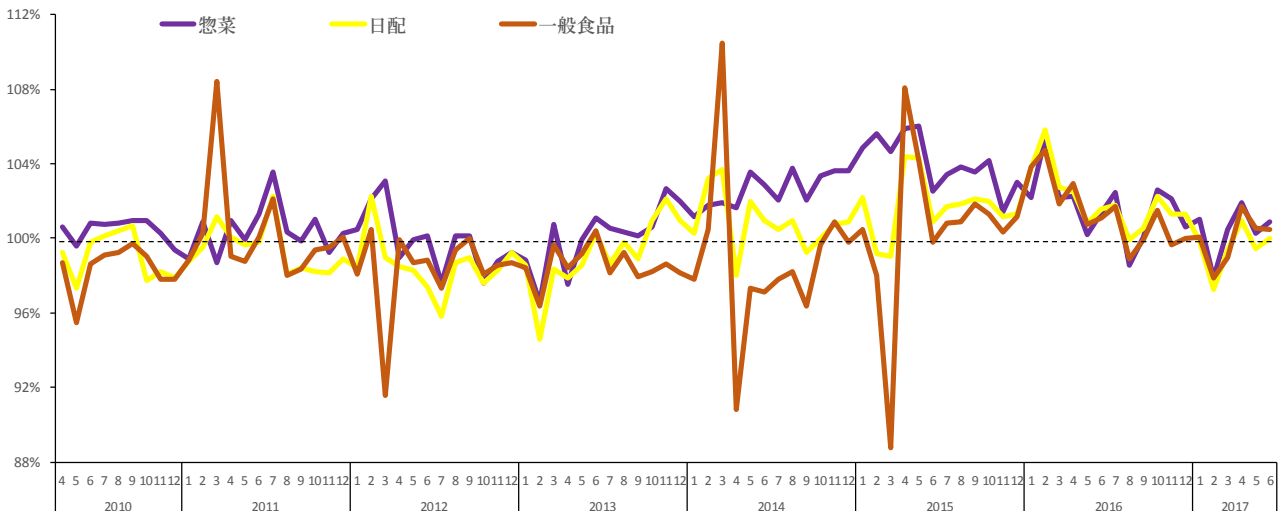
販売総額・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2010年4月～2017年5月までは確報版による前年同月比、2017年6月は速報版による前年同月比

2017年6月エリア別気候状況

1. 月の気温：西日本で気温が低かった

上旬：沖縄・奄美で高かった。一方、北・東日本で低く、西日本で平年並だった

中旬：沖縄・奄美でかなり低く、北・東・西日本で低かった

下旬：沖縄・奄美で高く、北・東・西日本で平年並だった

2016年6月との比較：上旬は東日本日本海側を中心にやや低く、中旬は全国的にかなり低かった

	平年との比較 (°C)						今年と前年との差 (°C)		
	2017年6月			2016年6月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	-0.7	-0.9	0.1	-0.8	-0.1	0.3	0.1	-0.8	-0.2
東北地方	-1.0	-1.2	0.7	0.4	1.6	0.5	-1.4	-2.8	0.2
関東甲信地方	-0.2	-0.7	1.1	0.3	1.7	0.5	-0.5	-2.4	0.6
北陸地方	-1.5	-2.0	-0.1	0.1	2.5	0.4	-1.6	-4.5	-0.5
東海地方	-0.5	-0.4	0.0	-0.1	1.2	0.1	-0.4	-1.6	-0.1
近畿地方	-0.9	-0.9	0.0	-0.3	1.3	-0.1	-0.6	-2.2	0.1
中国地方	-0.8	-1.0	0.1	0.0	1.6	0.1	-0.8	-2.6	0.0
四国地方	-0.1	-0.3	-0.3	-0.1	1.3	0.0	0.0	-1.6	-0.3
九州北部	0.0	-0.4	0.1	0.2	1.5	-0.4	-0.2	-1.9	0.5
九州南部・奄美地方	0.2	-1.3	-0.7	0.5	1.4	0.3	-0.3	-2.7	-1.0

平年差

+2°C以上

+1°C以上

-2°C以上

-1°C以上

前年差

+2°C以上

+1°C以上

-2°C以上

-1°C以上

2. 月の日照時間：東日本で日照時間がかなり多かった

上旬：東・西日本太平洋側でかなり多く、西日本日本海側と沖縄・奄美が多かった。一方、北日本で少なく、東日本日本海側で平年並だった

中旬：東・西日本でかなり多く、北日本で多かった。一方、沖縄・奄美でかなり少なかった

下旬：北日本太平洋側と東日本日本海側が多かった。一方、西日本太平洋側でかなり少なく、北日本日本海側で少なかった

2016年6月との比較：上旬は西日本を中心にやや長く、中旬は全国的に長くなった

	日照時間 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2017年6月			2016年6月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	82	136	83	89	51	121	-7	85	-38
東北地方	72	130	152	112	87	91	-40	43	61
関東甲信地方	127	167	104	117	120	85	10	47	19
北陸地方	97	149	157	122	110	107	-25	39	50
東海地方	144	190	78	112	95	89	32	95	-11
近畿地方	135	173	88	107	84	76	28	89	12
中国地方	122	166	100	91	87	80	31	79	20
四国地方	142	161	47	89	80	77	53	81	-30
九州北部	119	164	61	88	85	52	31	79	9
九州南部・奄美地方	153	115	49	106	86	80	47	29	-31

平年差

平年比150%以上

平年比125%~149%

平年比50%以下

平年比51%~75%

前年差

+50%以上

+25~49%

-50%以下

-25~-49%

3. 月の降水量：北日本で降水量がかなり多く、東日本太平洋側で降水量がかなり少なかった

上旬：沖縄・奄美でかなり少なく、東日本太平洋側で少なかった。一方、北日本でかなり多く、東日本日本海側が多かった

中旬：北日本太平洋側と東日本でかなり少なく、北日本日本海側と西日本で少なかった。一方、沖縄・奄美が多かった

下旬：東・西日本日本海側で少なかった。一方、北日本日本海側でかなり多く、北・西日本太平洋側が多かった

2016年6月との比較：上旬は北日本で多く、中旬は全国的にかなり少なく、下旬は北海道を除いて少なくなった

	降水量 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2017年6月			2016年6月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	368	64	280	204	384	138	164	-320	142
東北地方	254	35	58	69	138	95	185	-103	-37
関東甲信地方	49	33	80	33	113	94	16	-80	-14
北陸地方	168	4	49	22	80	92	146	-76	-43
東海地方	56	2	143	32	89	169	24	-87	-26
近畿地方	106	3	124	74	132	167	32	-129	-43
中国地方	172	12	79	202	161	146	-30	-149	-67
四国地方	89	48	142	128	174	205	-39	-126	-63
九州北部	49	31	81	73	177	171	-24	-146	-90
九州南部・奄美地方	37	117	132	50	154	148	-13	-37	-16

平年差

平年比150%以上

平年比125%~149%

平年比50%以下

平年比51%~75%

前年差

+50%以上

+25~49%

-50%以下

-25~-49%

気象庁ホームページ・報道発表資料「6月の気候」参照

平年値は過去30年(1981年~2010年)の平均

スーパーマーケット統計事務局作成

スーパーマーケット景気動向調査

2017年7月調査結果（6月実績）
（2017年7月21日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」
スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」
スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会
一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

7月調査（6月実績）結果概況

景気判断DIは一旦下げ止まるも頭の重い状況続く

6月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI 現状判断は前月から-0.3の43.5、見通し判断は前月と変わらず41.4となり、どちらも大きな変化はみられなかった。

経営動向調査では、売上高DIが-11.3と2ヵ月連続の二桁のマイナスとなったほか、収益DIは-9.5と低下した。客単価DIが-2.9と2ヵ月連続のマイナス、来客数DIも-10.5と低迷していることが影響している。生鮮品仕入価格DIは青果相場下落により1.4まで下押した。

カテゴリ動向調査では、畜産と惣菜がわずかなプラス圏に回復したものの、他のDIはマイナスとなった。なかでも野菜を中心に単価が下落した青果DIや寄生虫アニサキス報道の影響を受けた水産DI、他業態との競合が厳しい非食品DIではマイナス幅が大きくなった。（カテゴリ動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査では、現状判断、見通し判断共に前月から大きな変化はなかった。周辺地域景気判断は横ばい傾向が続くなかで、スーパーマーケット中核店舗での景況感が悪化している状況が続いている。2015年5月ピークにして低下傾向が続いておりいまのところ反転の兆しはみられない。（周辺地域景気動向DI 長期傾向参照）

景気判断は一旦下げ止まりをみせたが、2ヵ月続けて来客数、客単価ともにマイナスの厳しい状況となっており、特に客単価維持、上昇への対策が急務である。

近年、不安定な気候や変化の大きい気温への対応の重要性が高まっているが、同業、他業態との価格競争と一線を画す独自の取組みが必要な局面をむかえている。

景況感調査

現状判断

景気判断DI 当月： 43.5 (-0.3) 前月：43.8	消費者購買意欲DI 当月： 44.7 (+1.1) 前月：43.6	周辺地域 競合状況DI 当月： 41.3 (-0.1) 前月：41.4	店舗周辺地域 景気判断DI 当月： 46.2 (+0.4) 前月：45.8
--	---	---	---

見通し判断

景気判断DI 当月： 41.4 (±0) 前月：41.4	消費者購買意欲DI 当月： 42.8 (+0.4) 前月：42.4	周辺地域 競合状況DI 当月： 40.1 (+0.4) 前月：39.7	店舗周辺地域 景気判断DI 当月： 45.6 (+0.4) 前月：45.2
--	---	---	---

経営動向調査 経営状況

売上高DI 当月： -11.3 (-0.5) 前月： -10.8	客単価DI 当月： -2.9 (+0.3) 前月： -3.2	来客数DI 当月： -10.5 (-1.2) 前月： -9.3	
収益DI 当月： -9.5 (-0.4) 前月： -9.1	販売価格DI 当月： -0.8 (+0.2) 前月： -1.0	生鮮品仕入原価DI 当月： 1.4 (-0.8) 前月： 2.1	食品仕入原価DI 当月： 0.9 (-2.0) 前月： 2.9

カテゴリ動向

青果DI 当月： -14.6 (-2.0) 前月： -12.6	水産DI 当月： -19.1 (-0.6) 前月： -18.5	畜産DI 当月： 3.7 (+4.0) 前月： -0.3	
惣菜DI 当月： 0.8 (+1.4) 前月： -0.6	日配DI 当月： -6.2 (+3.3) 前月： -9.5	一般食品DI 当月： -2.2 (+2.9) 前月： -5.1	非食品DI 当月： -12.0 (-0.4) 前月： -11.6

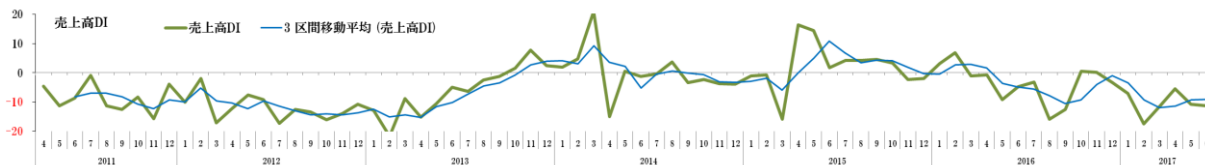
○ 内は前月DIとの増減、赤字はマイナス

7月調査（6月実績）結果詳細 I. 経営動向調査（2011年4月～）

1. 売上高DI

2ヵ月連続二桁のマイナスを記録し低迷続く

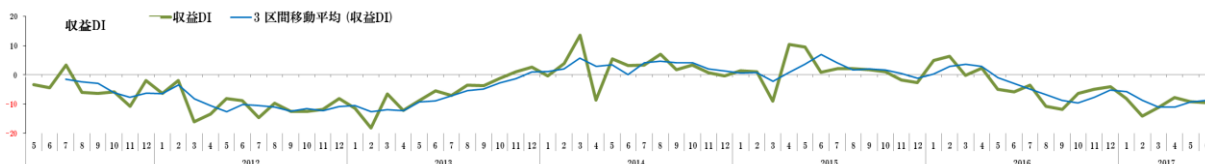
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	8.5	45.5	27.0	18.5	0.5	-10.8
売上高 (当月)	10.8	40.4	33.1	14.5	1.2	-11.3



2. 収益DI

当月わずかに低下し低迷続く

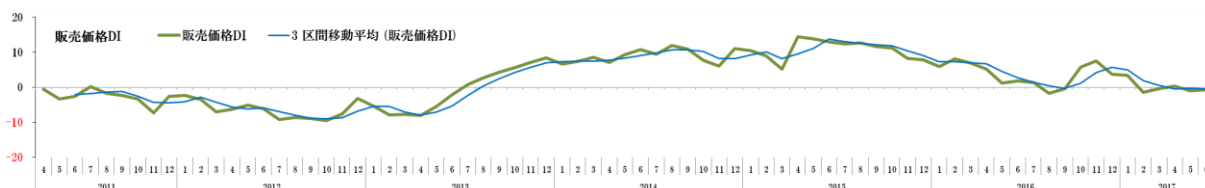
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	9.6	37.5	35.1	15.4	2.4	-9.1
収益 (当月)	9.2	38.7	35.6	14.1	2.5	-9.5



3. 販売価格DI

わずかなマイナス圏での推移が続く

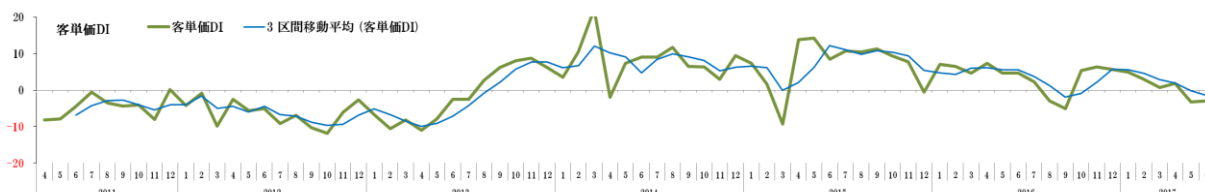
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	0.5	16.7	69.0	13.8	0.0	-1.0
販売価格 (当月)	0.6	16.9	67.5	15.1	0.0	-0.8



4. 客単価DI

2ヵ月連続でマイナス圏となり下降傾向が続く

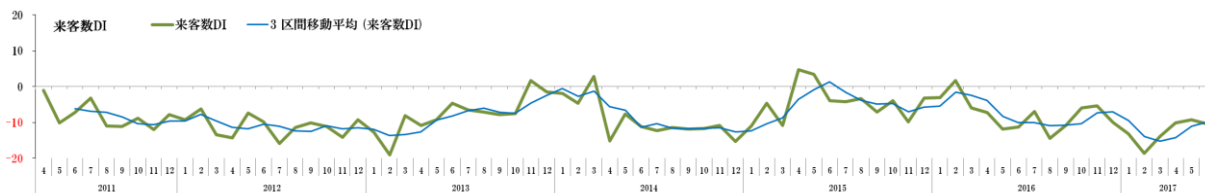
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	0.5	31.8	47.9	19.9	0.0	-3.2
客単価 (当月)	1.8	26.2	53.7	18.3	0.0	-2.9



5. 来客数 DI

当月小幅に再び下落しマイナス圏での推移が続く

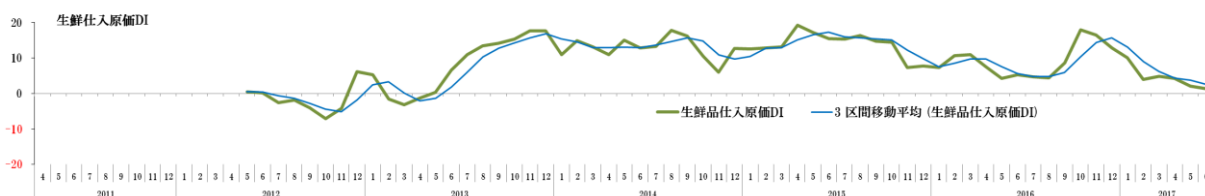
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	7.1	40.5	35.2	16.7	0.5	-9.3
来客数 (当月)	7.3	41.2	37.6	13.9	0.0	-10.5



6. 生鮮仕入原価 DI

わずかなプラスを維持も低下トレンドが続く

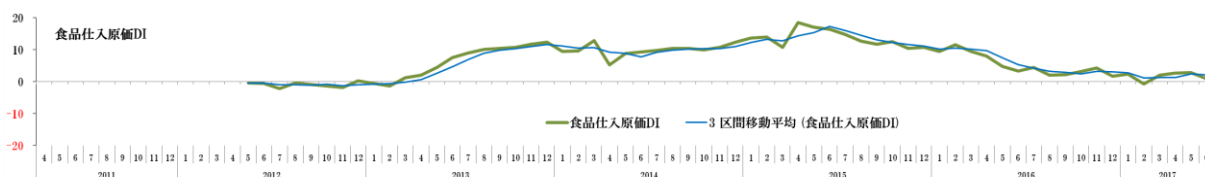
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	2.9	11.7	60.5	23.9	1.0	2.1
生鮮仕入原価 (当月)	2.5	16.0	57.1	22.7	1.8	1.4



7. 食品仕入原価 DI

わずかなプラスを維持も低下トレンドが続く

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	1.9	9.2	65.0	22.8	1.0	2.9
食品仕入原価 (当月)	1.8	10.9	69.1	18.2	0.0	0.9

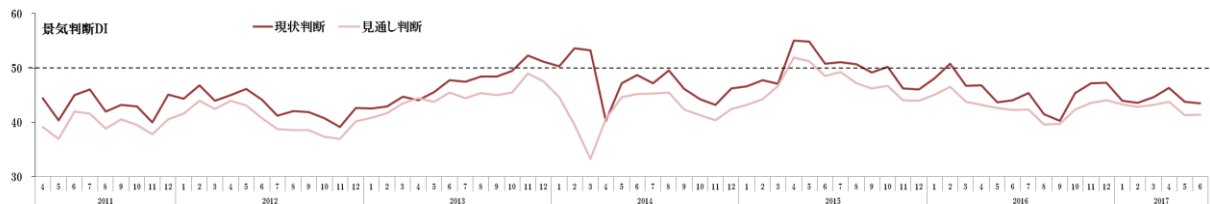


II. 景況感調査 (2011年4月～/周辺地域景気判断のみ2010年4月～)

1. 中核店舗景気判断 DI

現状判断、見通し判断とも下げ止まりをみせるも頭の重い状況続く

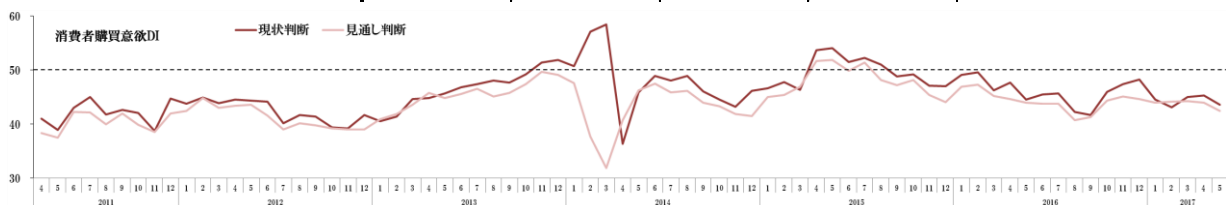
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断 (前月)	0.9	29.9	62.1	7.1	0.0	43.8
【現状】景気判断 (当月)	1.2	30.7	60.8	7.2	0.0	43.5
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断 (前月)	2.8	33.2	59.7	4.3	0.0	41.4
【見通し】景気判断 (当月)	2.4	33.1	60.8	3.6	0.0	41.4



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断、見通し判断ともやや改善するもゆるやかな下降トレンド続く

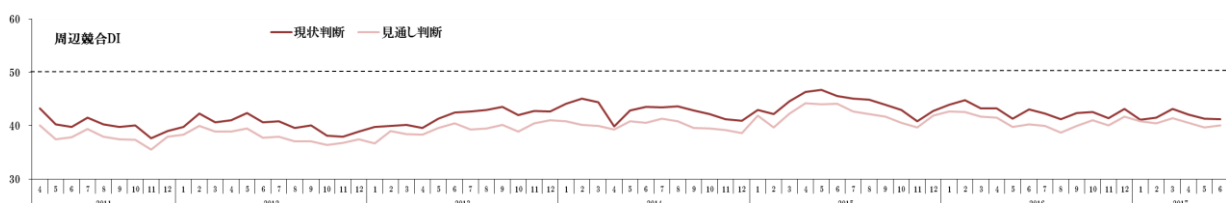
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	0.5	30.8	62.6	6.2	0.0	43.6
【現状】購買意欲 (当月)	0.6	27.7	63.9	7.8	0.0	44.7
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	1.4	30.8	64.5	3.3	0.0	42.4
【見通し】購買意欲 (当月)	1.2	30.1	65.1	3.6	0.0	42.8



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状、見通し判断共に弱含みで変化の基調ない

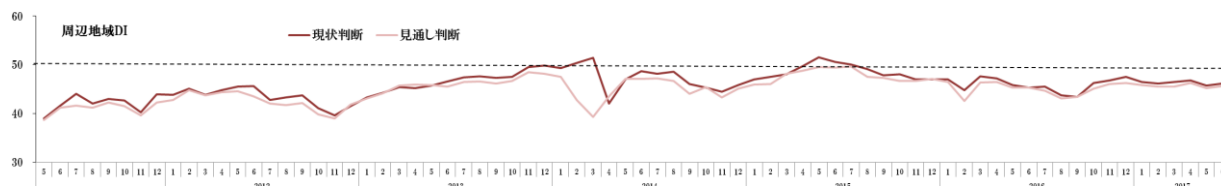
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	4.3	30.3	61.1	4.3	0.0	41.4
【現状】競合状況 (当月)	4.2	29.5	63.3	3.0	0.0	41.3
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	6.2	30.8	61.1	1.9	0.0	39.7
【見通し】競合状況 (当月)	4.8	31.9	61.4	1.8	0.0	40.1



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

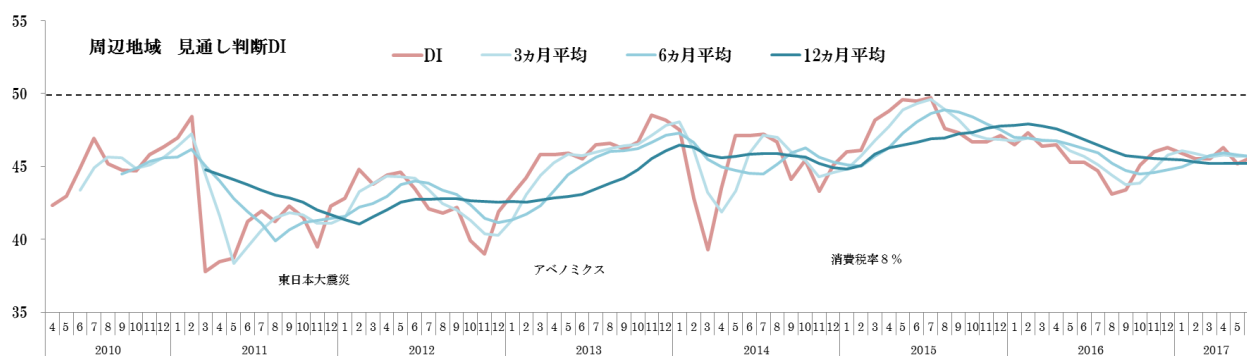
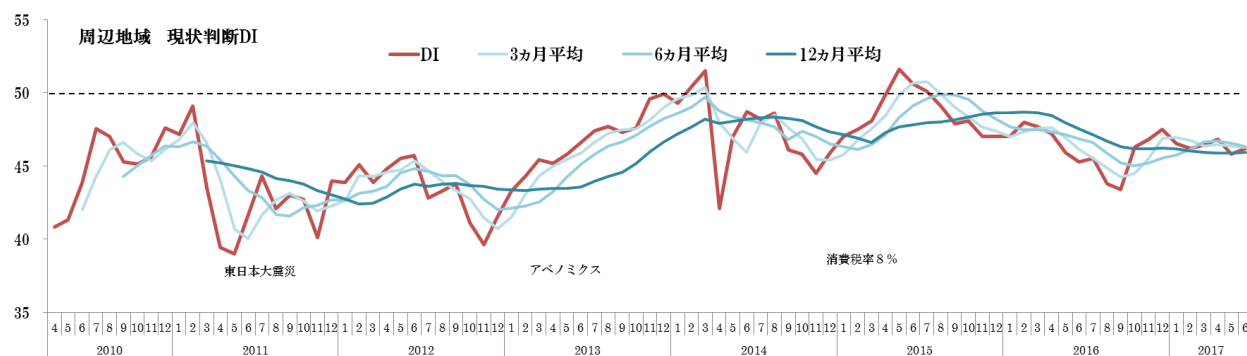
現状判断、見通し判断共に横ばいでの推移が続く

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気(前月)	0.0	18.3	80.3	1.4	0.0	45.8
【現状】地域景気(当月)	0.0	17.6	80.0	2.4	0.0	46.2
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気(前月)	0.5	21.2	75.5	2.9	0.0	45.2
【見通し】地域景気(当月)	0.6	18.2	79.4	1.8	0.0	45.6



長期傾向 (2010年4月～)

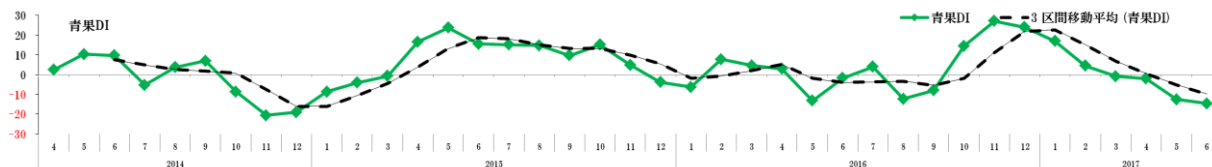
2012年11月以降改善傾向を続けていた「中核店舗周辺地域景気判断DI」は、2014年4月の消費税率引き上げの影響を受け大きく下落した。5月に一旦持ち直したものの、6月～8月まで横ばい推移、9月に再び悪化した。その後、年末から6ヵ月連続で改善し、2015年5月には調査開始以来の最高水準まで改善をみせた。これをピークに6月以降悪化傾向が続き11月は下落の速度が早まった。12月～2月は横ばいで推移したものの、2016年3月以降悪化をみせ、8月には大きく下落した。直近9月に下げ止まりをみせ、10月は一転して大きく改善し、12月まで小幅な改善が続いた。2017年に入り、方向感なく横ばい推移が続いている。直近5月は小幅に悪化した、12ヵ月移動線付近で下げ止まっている。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：-14.6（不調）

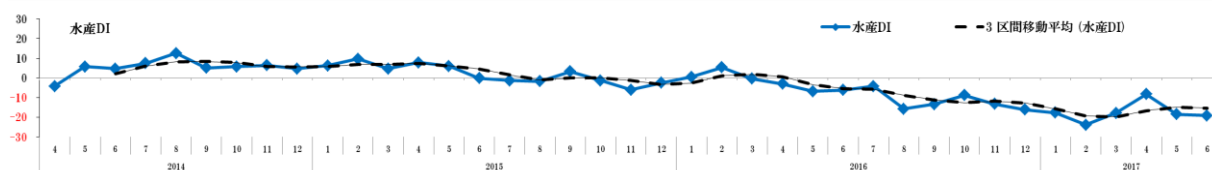
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	11.9	41.8	31.3	14.4	0.5	-12.6
青果（当月）	14.6	42.7	29.9	12.1	0.6	-14.6



野菜類は全体的に相場が低下し、一品単価が下落し不調となった。薬物をはじめとするサラダ野菜ではやや数量に伸びがみられたが、土物類は伸び悩んだ。果物では、旬であるさくらんぼや桃、メロンなどが出荷に遅れがみられた影響を受けた。スイカは相場が安く数量的には好調となった。輸入果物ではチェリーは昨年不振だった反動から好調だが、キウイは不調となった。カットフルーツは全般的に好調となった。

2. 水産DI：-19.1（不調）

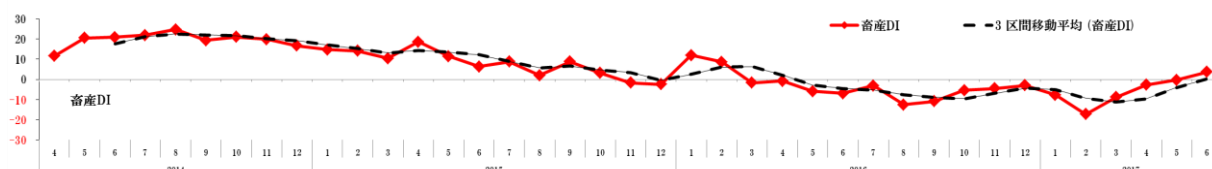
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	18.0	49.5	22.5	8.5	1.5	-18.5
水産（当月）	17.8	51.0	23.6	5.1	2.5	-19.1



引き続き生魚の入荷が少なく相場も高値が続くなか、生魚、切り身、刺身などがアニサキス報道による影響を受け不調となった。そのため焼き魚や炙り魚を拡販する動きもみられた。相場が高いマグロや鮭、うなぎが好調にあげられており、するめいかは不漁により特に不調にあげられた。

3. 畜産DI：3.7（やや好調）

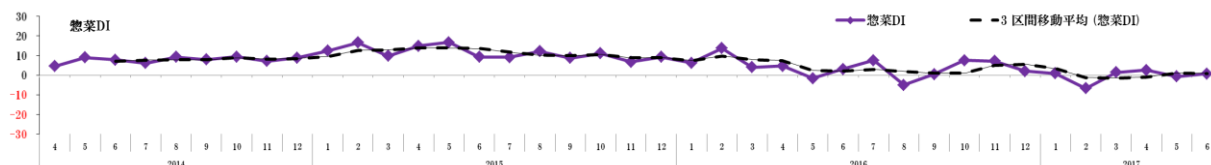
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	6.5	27.0	32.0	30.0	4.5	-0.3
畜産（当月）	3.8	24.4	33.3	30.1	8.3	3.7



晴天に恵まれたことや父の日に合わせてステーキや焼肉用牛肉が好調となった。輸入牛を中心に好調であるが、一部では和牛やブランド牛の動きもよかった。豚肉は冷しゃぶ用を訴求して好調だが、気温が上がらなかった地域では伸び悩みをみせた。海産物からの需要シフトを指摘するコメントも多くみられた。

4. 惣菜DI：0.8（やや好調）

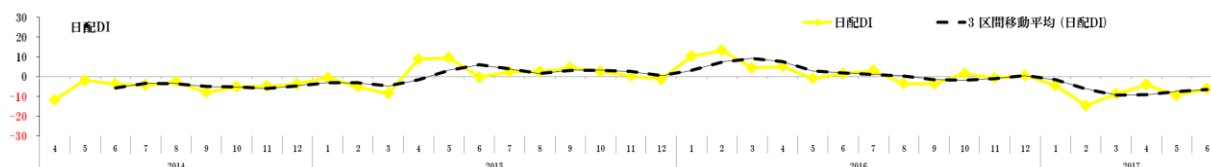
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	9.5	22.0	35.0	28.5	5.0	-0.6
惣菜（当月）	7.1	18.1	43.2	27.7	3.9	0.8



前年との気温差により揚物や米飯類、涼味商材の好不調が正反対の結果となった。全般的にアニサキス報道で寿司類は不調となった。新メニューの提案や父の日に関連した取組みを強化しており、成果をあげている。また夕方の天候不順によりロスが発生したとのコメントもみられた。

5. 日配DI：-6.2（やや不調）

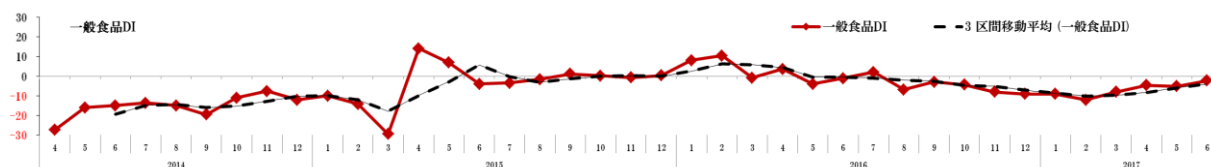
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	8.0	36.3	42.8	11.4	1.5	-9.5
日配（当月）	7.0	30.6	42.7	19.7	0.0	-6.2



前年との比較では気温が低い地域では、飲料や涼味系商材を中心に伸び悩んだ一方で、パン類や牛乳が好調となった。前年特需のあった機能性ヨーグルトや梅干しには反動もみられる。メディアで取り上げられた甘酒や豆乳などが引き続き好調となっている。競合との価格競争を指摘するコメントもみられる。

6. 一般食品：-2.2（やや不調）

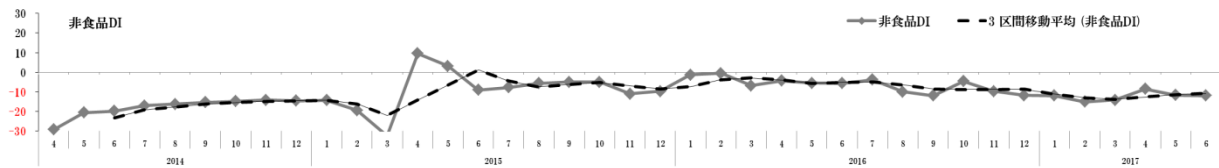
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	4.5	35.6	37.6	20.3	2.0	-5.1
一般食品（当月）	5.1	24.4	46.2	23.1	1.3	-2.2



雨が少なく飲料や素麺が好調となったものの、前年に比べ気温の低下した地域では、伸び悩みをみせた。引き続き、相場高の米類は好調を続けているほか、ビールには前月駆け込み需要からの反動減もみられたが、単価上昇により落ち込みは少なかった。健康志向の高まりにより海藻や寒天が好調とのコメントが散見された。ポテトチップスやチョコレートなど菓子類も比較的好調となった。競合との価格競争を指摘するコメントが多くみられた。

7. 非食品 DI：-12.0（不調）

回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	13.0	34.0	41.5	9.5	2.0	-11.6
非食品（当月）	13.8	31.6	45.4	7.2	2.0	-12.0



前年との気温差により、殺虫剤や制汗剤など季節商材の動きがわるかった。タバコの売上低迷を指摘するコメントも多い。ホームセンター、ドラッグストアなどとの価格競争が厳しく、低迷が続いており、売場の縮小などを行う店舗もみられた。

カテゴリ別 DI による好不調判断

かなり好調：～ 20 好調：20 ～ 10 やや好調：10 ～ 0
 やや不調：0 ～ -10 不調：-10 ～ -20 かなり不調：-20～

2017年7月調査（6月実績）キーワードTOP3

1. 天候要因（晴天・前年に比べ気温低い、気温の変化大きい）
2. 青果相場安
3. 競合との価格競争

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

6月実績速報版 166社
 5月実績確報版 211社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp